July 7 2022
compass
大原生のための公認会計士情報誌
C.P.A. O-hara Method to Pass A State-exam Successfully
月刊コンパス七月号

特集 令和4年公認会計士第Ⅱ回短答式試験

短答式試験の全貌解明!

「損することは一つもない」

受験勉強一色の生活に不安を抱いている受験生もいるだろう。だが、その苦労は決して無駄にはならない。

夏休みの宿題を7月中に終わらせる小学生は、何か損をするだろうか。少なくとも、「早めに終わったならこれもやれ」と宿題が増えることはない。7月は大変かもしれないが、そのぶん8月は楽になる。7月中に終わらせても、損することは一つもない。

受験勉強も同じである。受験勉強を早めに終わらせても、損することは一つもない。だから、「週何時間勉強すればよいか」という受験生からの質問には「できるだけ多く」と答えたいと思う。どんどん勉強して、受験勉強を早めに終わらせてほしい。

受験勉強を早めに終わらせるというのは、具体的にはどういうことか。例えば、今はまだ6月だが、すでに学力十分で、8月の論文式試験に対して合格確実となっている論文受験生が散見される。こういった受験生は、会計士試験の受験勉強を早めに終わらせたということになるだろう。まだ試験の2ヶ月前だから、夏休みの宿題を7月中に終わらせた小学生よりも余裕がある。実際、来月には全国模試、再来月には本番が控えているが、彼らの顔つきはすでに穏やかだ。

本稿の読者の中には、他のことを犠牲にして勉強ばかりしている今の生活に不安を抱いている受験生もいるかと思うが、その労苦は無駄にならない。今やることで、あとが楽になる。夏休みの宿題と同じである。今のうちに勉強しておいて損することは一つもない。心おきなく受験勉強一色の生活を送ってほしい。人間、寝溜め食い溜めはできないが、勉強溜めはできるのだ。

令和４年公認会計士第Ⅱ回短答式試験

短答式試験の全貌解明！

5月29日（日）、令和４年公認会計士第Ⅱ回短答式試験が実施されました。午前９時半から午後６時まで、３時間半の途中休憩は挟むものの８時間半にもおよぶ長丁場の中で、集中力を持続させ、自己のもち得る知識を総動員して戦い抜かれた受験生の皆さん、本当にお疲れ様でした。
大原の講師陣も本試験終了後に届けられた問題に目を通し、自己の出来栄えに思いを巡らす受験生の皆さんに、試験の実態をいち早くお知らせすべく模範解答作りに取り組みました。

令和４年５月30日　オンライン会議にて
財務会計論（計算）：瀧本祐和、企業法：高田貢介、監査論：栗田 篤
管理会計論：水野悦之、司会：二葉 穣、財務会計論（理論）：新井孝志

司会
二葉 穣

短答式試験の出題傾向と難度

二葉　本日は、短答式試験の模範解答の作成に携わっていただいた講師の方々にお集まりいただき、出題傾向の分析と次回へ向けての対策などをお伺いして参ります。

さて、出題問数は財務会計論が28問、企業法と監査論が各々20問、管理会計論が16問と前回と同様でした。また、出題形式は、４肢６択形式の理論問題が、監査論、企業法、財務会計論、そして管理会計論で出題されました。

そこで、試験実施の順に企業法からこれらの出題形式が受験生へ及ぼす影響や、問題そのものの難度などについてお聞きしていきます。

（なお、ここで難度とは、一般的な受験生が制限時間内で正解を導き出すうえでの設問そのものの純粋な難しさの程度を、大原の講師陣が受験指導の経験を通じて判定したものであって、最終的な合格基準を判定する尺度ではありません。）

企業法

貯金を作るのは難しい

高田　形式面の変化はありません。問題数は20問で、そのうち商法と金商法が２問ずつ、会社法が16問でした。出題形式も４肢６択で正しいものの組合せを選ぶ形式で、配点はすべて５点でした。

内容面については、従来通り、条文の知識を問う肢がほとんどでした。しかし、前回は細かな知識に関する肢が減り、基本的な知識に関する引っ掛け的な肢が増えた印象だったのに対し、今回は細かな知識に関する肢が前回より増えた（復活した）印象です。

判例に関する肢は、前回と同数の７肢（問題１のア～エ、問題８のエ、問題17のウエ）でした。このうち問題１のア～エ、問題８のエの判例は、多くの受験生が知っているものであり、正誤の判断は容易だったと思います。これに対し、問題17のウエの判例を知っていた受験生は少ないと思います。ウの肢にはどの時点を基準とするかが記載されているのに対し、エの肢にはそのような記載がないことから、この辺りが何となく怪しそうだと気付いた受験生もいるかもしれません。しかし、多くの受験生は、そのことに気付くことができなかったと思います。

令和元年改正に関する肢は、７肢（問題８のイウ、問題10のエ、問題18のア～エ）でした。今回も令和元年改正に関する問題が丸々１題出題されている点では前回と同様ですが、今回はその他に３肢出題されていますの

で、令和元年改正に関する出題が少し増えました。問題8のイウ、問題10のエは、対策を怠らなかった受験生であれば、きちんと正誤を判断できたと思います。これに対して、問題18は難度が高く、正解にたどり着くのは容易ではなかったと思います。

二葉　内容面について、具体的に教えてください。

高田　商法は、問題1が名板貸人の責任、問題2が商行為全般（匿名組合、仲立人、問屋、運送人）に関する問題でした。問題1は易しかったと思いますが、問題2は、イの肢のようにどのようなシチュエーションを念頭に置いているのか分かりづらい肢があったことも要因となり、難度が高かったと思います。

　金商法は、問題19が確認書、問題20が公開買付けに関する問題でした。問題19は易しかったと思いますが、問題20は「発行者による公開買付け」という特殊な公開買付けの問題だったこともあり、難度が高かったと思います。

　会社法16問の内訳は、設立1問、株式3問（ただし、問題4のアイは機関に関する肢）、機関6問（うち3問は株主総会）、計算2問、社債1問、事業譲渡・組織再編3問でした。基本的には例年通り万遍無く出題されてはいますが、資金調達の分野からの出題がなかった点、機関の分野のうち3問は株主総会からの出題であった点、事業譲渡・組織再編の分野から3問出題された点で、例年に比べると若干偏りがあったような印象を受けます。

　また、問題13のように、会社計算規則の細かな知識を問う問題が出題されました。過去にも会社計算規則の知識を問う問題が何度か出題されていますが、今回は他の科目（特に計算科目）の知識を活用しても解けなかったでしょうから、相当難度が高かったと思います。

　全体的に見ると、前回は基本的な知識が確実な上位層であれば高得点を取ることも十分可能だったのに対し、今回は細かな知識に関する肢が前回より増えたことや、商法・金商法で難度の高い問題が出題されたこと等から、思うように点数が伸びなかったと思います。少なくとも、前回と比べて高得点を取るのは難しかったと思います。ただし、だからと言って、合格ラインがグンっと下がったりするようなことはないと思いますので、合格ラインは前回と同程度の65点といったところでしょうか。

二葉　ありがとうございました。企業法は思うように点数が伸びず、企業法で貯金を作るのは容易ではなさそうですね。では管理会計論はどうだったのでしょう。

企業法
高田貢介

管理会計論
スピードと精度の両立

水野　今回の短答式試験も昨今の出題傾向と同様、全16問でした。今回は以前に比べるとやや易化したと考えられます。計算問題にはパッと見のボリュームは少なくても手数のかかる問題もありました。その中でも普段の演習を通じてトレーニングを重ねていれば解答可能な問題は存在しておりましたので、問題の取捨選択をしっかりとしていただければ必要な点数を確保できたでしょう。理論問題に関しては、前回の問題に比べると一肢当たりの文章がやや多くなった印象です。ただ、前回以前の問題に比べると全体としての、ボリュームは減っています。計算：理論の問題数の比率はここ最近の傾向通りで、計算8問：理論8問（配点でみると計算60点：理論40点）となります。大まかな出題内容としては、前半8問（50点）が原価計算、後半8問（50点）が管理会計の範囲と、万遍なく出題されておりました。例年通りとなりますが、順当に解けたとしても時間内に全ての問題に着手することは困難で、正答ができそうなAランク問題を見極め、確実に点数を積み上げることができたかどうかが肝となります。

　前半8問は計算問題が4問、理論問題が4問の出題でした。計算問題では、問題2は選択肢から判断する必要があり、非常に判断が難しい問題でしたが、その他の計算問題に関しては、日頃の計算練習をしっかりとしていただいていれば十分に正答可能な問題であったと考えられます。理論問題4問は「原価計算基準」から2問、「原価計算基準」外から2問出題されました。「原価計算基準」外からの出題に関して見ますと、見慣れない問題、聞きなれない言葉が出題されていましたので少し解きづらかったかと思います。問題5、問題8は「原価計算基準」からの出題でした。全体としては基準からストレートに出題された問題が多かったため、しっかりと基準を読まれていた方は正答が可能であったでしょう。基準以外の出題もございましたが、今後も基準は徹底的に対策をしておく必要があるでしょう。

　後半8問は計算問題が4問、理論問題が4問の出題でした。計算問題は、前回に引き続き全体として解きづらい問題が続いていました。一方、理論問題に関しては、前回の出題と同様、テキストをしっかりと読んでいただいていれば正答可能な選択肢が多かった印象です。

　全体を通じては冒頭でお話をしました通り、前回以前と比べればやや易しくなった印象はありますが、やはり問題の取捨選択が勝負の分かれ目になる出題となっておりました。つまり、短答式試験は合格ボーダーの変動する相対評価の試験となりますので、皆が解ける問題をどれだけ確実に得点していけるのかがとても重要です。管理会計論はここ最近、応用的な問題が多く出題されておりますが、基礎的な問題に絞って冷静に点数を積み上げれば、稼ぐことはできなくとも大崩れしない安定した点数を獲得できます。応用的な問題は概ね正答率も低いので、無理に手を付けず、落ち着いてできる問題を確実に得点する姿勢を持っていただきたいです。

二葉　今のご説明で全般的な出題傾向はわかりました。では、次に各問題についてのコメントやランクについてお願いいたします。

水野　難度のランクを総括すると、Aランクの問題が9問、Bランクが5問、Cランクが2問でした。Bランクが問題1、問題10、問題11、問題12、問題16、Cランクが問題2、問題14となります。ただし、個々のランクと問題全体の難度は必ずしも一致はしません。

　まず計算問題です。原価計算分野からは問題2は正答することが非常に難しい印象の問題でした。そもそも原価等の分類を苦手にされる方が多いため、公開模試でも同様の形式の問題を出題しておりましたが、今回も公開模試実施時と同様に問題を見た瞬間に後回しにするという戦略を取られた方も多かったでしょう。問題の取捨選択の中で後回しにしてよい問題であったと考えられます。続いて、問題4ですが、典型的な部門別計算の問題でしたので、こちらはしっかりと正解して頂きたい問題です。こちらも公開模試でほぼ同様の形式で出題をしておりましたので、正答を見込める問題となっておりました。そして、問題6についてもパッと見はボリュームが多そうに感じる問題でしたが、日々計算のトレーニングをしていただいていれば平易な印象の問題となっておりました。問題7は仕損の生じない標準原価計算の差異分析の問題であり、短答直対演習でも、同様の出題形式の問題を出題しておりましたので、正答可能であったでしょ

管理会計論
水野悦之

う。問題10は試行錯誤をすれば解答可能な問題でしたが、時間制約の強い管理会計論の問題の中で時間を費やすことは現実的ではないため、多くの方が後回しにされたでしょう。問題13に関しては、一部推定が含まれている問題でしたので、積極的に解答をされた方は少なかったでしょう。問題14は、製品Xの1kgがそのまま製品Yの1kgになるわけではないことに気付いたうえで、そもそも製品Xを3,000kg製造することを前提として考える必要がある問題でした。このように問題文の指示を一つずつ読み取る必要がありましたので、解答時間も非常に多く要することが想定され、実際には解答された方は少なかったでしょう。問題16は戦略的意思決定の問題でした。論点で敬遠された方もいらっしゃったかと思いますが、実際には短答直対演習やステップ演習などで得点すべき問題とされるレベルの問題でした。解答としても新規の設備と取り替えるタイミングであったり、実効税率に気を付けるなど通常の取替投資の意思決定の留意点に気を付けていければ正答可能でした。

次に理論問題ですが、問題1、問題3は「原価計算基準」外からの出題でした。まず、問題1は証ひょう・帳簿といった見慣れない問題でしたし、一問目ということで面食らった方もいらっしゃったでしょう。ここで熱くならずに解答を進められたかどうかも重要だったでしょう。問題3も「原価計算基準」外からの出題でしたが、問題1と異なり、聞きなれない文言はあったものの、既存の「原価計算基準」の知識があれば正答可能なものでした。続いて、問題5、問題8に関しては、「原価計算基準」からの出題でした。短答直対演習で出題している部分もあるため、「原価計算基準」の問題に対して、しっかりと準備されていれば、問題なく正答が可能であったでしょう。続いて、管理会計の分野ですが、問題9はSWOT分析といった経営学では触れるが管理会計論では触れない論点となっており、少し解きづらいと感じられる方もいらっしゃったでしょう。問題11、問題12に関しては、一部テキストに記載のない内容もありましたが、基本的にはテキストをしっかりと読んでいただければ十分に正答可能でした。最後に問題15はテキストをしっかりと読んでいれば正答可能な問題でした。

※受験会場イメージ

時間的な制約もあり、いくつかの問題はそもそも実施時に手つかずにならざるを得ないからです。言い換えれば、Aランクの問題を見極め、それを確実に正答する力が要求されておりました。Aランクの問題で指示の読み飛ばしや読み間違え、計算ミス等による間違えやタイム・ロスがあると点数を積み上げることができません。いかに手堅く点数を積み上げることができたかが分かれ目でしょう。これらすべて考慮しますと、管理会計論で望まれる点数は60点程度となるでしょう。

二葉　普段解いている演習や問題集を通じてAランクの問題を確実に解答できる基礎力を付けていくことで負けない点数が確保できたということですね。

さて監査論は、前回の短答式試験と比べると、いかがでしたでしょうか。

監査論
前回よりやや易しくなった

監査論
栗田 篤

栗田　形式面は前回と同様で、4肢6択の問題が20問出題されており、正しい肢の組合せ番号を選ぶものでした。問題文のボリュームに大きな変化はなく、各肢に十分に時間をかけることができる程度の量であったと思います。

難度については、前回よりやや易しくなっており、Aランクの問題が16問、Bランクが2問、Cランクが2問でした。基礎的な知識があれば解答が可能なAランク問題をすべて得点すると、80点獲得することが可能ですので、70～75点以上を目指したい問題と言えます。

今回の問題では、問題15、問題19がBランクで、問題1、問題16はCランクでした。これらの問題以外についてはテキストや演習等の教材の知識で正解が導ける問題で、Aランクとなります。Aランク問題は取りこぼさずに正解していただきたかったです。

二葉　今回の監査論で、出題内容や傾向に特徴はあったのでしょうか。

栗田　毎回出題されている公認会計士法等の法律は問題2～問題7、四半期レビューは問題8、問題9、品質管理は問題9、問題10、不正リスク対応基準は問題10で出題されており、出題分野は前回までと大きな違いはありません。これまで毎回出題されていた内部統制報告制度に関する問題が出題されておりませんでしたが、頻出分野の一つである法律等が、いつもより多く出題されておりましたので、受験生は学習の成果を感じることができたのではないかと思います。

問題1において、監査の歴史に関する問題が出題されておりました。監査の導入当時の内容であり、正解を導くのは困難な問題でしたので、時間をかけずに次の問題に進めたかが重要となります。

二葉　ありがとうございました。次に財務会計論ですが、計算のボリュームの変化はあったのでしょうか。また、難度も含め、内容面ではどうだったのでしょうか。

財務会計論（計算）
やや易化

瀧本　財務会計論の出題形式は、前回までと同様に全体で個別問題が22問、総合問題1問（設問6問）の構成は変わらずでした。個別問題のうち13問が計算問題で、200点満点のうち128点が計算問題に配点されています。分量の多い問題や応用的な内容が組み込まれた問題が見受けられましたが、全体的には解きやすい問題でした。

短答式試験では満点を取る必要はなく、正答できる問題を確実に正答することが求められます。短答直対演習などの解説でもお伝えしておりましたが、まさにその点が問われた問題でした。

個別問題では、分量が多いため時間配分を適切に行い、焦らず確実に解答することが求められました。

総合問題はいつものとおり連結財務諸表から出題されましたが、標準的な問題であり高得点を期待したい問題でした。

二葉　財務会計論（計算）の問題を解くにあたっては、どのような点に留意する必要があったのでしょうか。

瀧本　平易な問題を確実に解答して点を積み重ねていくことが大切です。普段の演習からそのような解き方を実践してきた方は、十分な得点が確保できたでしょう。

二葉　なるほど。では、個々の問題についての具体的なコメント及び難度をお願いします。

瀧本　個別問題のAランクは、問題3、問題4、問題6、問題7、問題11、問題

財務会計論（計算）
瀧本祐和

13、問題16、問題18、問題20、問題21です。これらの問題を確実に正答して点数を積み重ねたいところです。演習でも対策を重ねてきた論点であるため、苦手論点を作らないように網羅的に学習を進めてきた方は点数を積み上げることができたと思います。

個別問題の問題5、問題15はBランクです。手薄になりがちな論点であったり、見慣れない資料などが含まれている問題であったりしますから、Aランクと比べると正答しづらい問題でした。ですが、普段の学習で身に付けた知識をベースに問題文を丁寧に読み取ることで正答につながります。Aランク、Bランクから9問程度を正解したいところです。なお、問題12はCランクです。

問題23～問題28は連結財務諸表の総合問題でした。すべてAランクであり、比較的解きやすい問題でした。

二葉　わかりました。財務会計論（計算）は解きやすい問題を確実に正解に結びつけることが重要だということですね。次に財務会計論（理論）に関してですが、今年の傾向はどうでしょうか。

財務会計論（理論）
前回より解き易い

新井　理論は前回と同じ9問の出題でした。出題形式は前回と同様、正しい肢の組合せ番号を選ぶ4肢6択の問題でした。適用指針の規定などを出典とする難度の高い肢も一部含まれていましたが、基本的な論点からの出題が中心であり、前回より解き易かったという印象です。

8割を超える肢が大原の理論テキストの知識だけで判定でき、大原の短答直対演習・短答実力養成演習・肢別チェックで解いている内容も数多く出題されていましたので、大原生は高得点が可能です。基本論点を網羅的に学習していた受験生にとっては、高得点が期待できる良問であったと思います。

二葉　それでは、個々の問題の難度と目標ラインをお聞かせください。

新井　Aランクは問題1、問題2、問題8、問題9、問題14、問題17、問題22の7問です。このうち、問題1、問題8、問題9、問題22は、ほぼすべての肢が大原の短答直対演習と短答実力養成演習で出題していた論点であり、問題2と問題14も、すべての肢が大原の理論テキストで学習している基本的な論点でしたので、これら6問は容易に正答可能です。問題17は、エの肢が難度の高い適用指針の内容でしたが、残りの3肢は大原の理論テキストで学習している基本的な論点であり、肢別チェックや短答直対演習などでも対策していたため容易に正答可能です。

財務会計論（理論）
新井孝志

残りの2問がBランクです。問題10は、復習が手薄になっている受験生が多い「1株当たり純利益」に関する問題のため、Bランクとしました。イの肢は難度が高いですが、アの肢は大原の肢別チェックで解いている内容、ウとエの肢は大原の計算テキストで学習している内容です。問題19は、イとウの肢が難度の高い実務指針の内容のため、Bランクとしました。ただし、アとエの肢は基本的な内容であり、イとウの肢は計算の知識で判定できるため、これら2問は、計算の知識も活用すれば正答可能な問題です。

Bランクのうち1問でも正答できれば非常に有利になりますが、財務会計論（理論）は、Aランク7問を正答して、9問中7問の正答が目標ラインです。

二葉　わかりました。財務会計論（理論）は、高得点が期待できそうですね。

過去問分析の価値と短答対策について

二葉　さて、次に今回の出題傾向を踏まえて、今後の短答対策のポイント等をお聞かせください。

企業法
出題傾向にかかわらず基本が大事

高田　毎回お話しているように、出題傾向にかかわらず、「基本的な知識を確実にする」ことが何より大事です。最近の本試験では、企業法で高得点を取るのが難しくなってきています。もし確実に高得点を取るために細かな知識についても押さえておこうとすると、覚えなければならない知識量が一気に増えてしまいます。今の2倍とまでは言いませんが、少なくとも1．5倍ぐらいの知識量が必要になるでしょう。しかし、ただでさえ覚えなければならない知識が多い企業法において、さらに多くの知識を覚えようとするのは現実的ではありません。他の科目にシワ寄せがいくでしょう。

受験生の中には、細かな知識にとらわれすぎるあまり、基本的な知識が疎かになってしまっている方も少なからずいらっしゃいますが、それは論外です。たとえCランクの問題を1問正解できたとしても、Aランクの問題を2問落としてしまったら、何の意味もないどころか、むしろマイナスです。

重要なのは、高得点を狙いに行くことではなく、問題の難易度にかかわらず、最低でも7割程度取れるようにしておくことです。問題の難易度に左右されず、常に7割を死守できるような勉強をしている受験生は、基本的な知識が確実なため、企業法で大崩れすることはありません。7割という最低ラインをキープしつつ、問題の難易度によっては、さらにそこから何問かの上乗せが期待でき、8割以上取れることもあるでしょう。

細かな知識にとらわれることなく、基本的な知識を確実にして、正解すべき問題で確実に正解できるようにしておくこと、それが何より大事です。

※短答式試験会場前

管理会計論
Aランク問題を手堅く

水野　今後の短答対策としては、先ほども強調いたしましたが、まず点数を積み上げるために、Aランクの問題であれば読み飛ばしや計算ミス等でタイム・ロスなく確実に正答することが求められます。Aランクの計算問題と理論問題を正解することで、大崩れは防げます。もともと管理会計論は攻める科目ではないので、この姿勢を持つようにしてください。ここで、勘違いしていただきたくないのは、管理会計論での合格点とは合格ボーダーの得点比率のことではありません。管理会計論での合格点とは「周りに負けない点数」です。内容面の難度の高さに時間的制約が加わる管理会計論では、費用対効果を考え、細かい枝葉の論点まで準備するよりも、相対的に負けないことが重要です。財務会計論等で周りに勝つ点数、稼ぐ点数を取り、管理会計論は踏みとどまる点数を確実

に取る、というのが望ましいです。良いときは良いが悪いときは悪い、では無く、悪いなりに常に一定以上の点数を取る、ということです。

この戦い方の場合、Aランクでの取りこぼしは致命傷になりますので1問1問を速くかつ正確に解く力が要求されます。そこで、計算については、演習の復習優先度Aランクの問題や問題集を学習の中心教材とし、これらの中で解けない問題、時間がかかる問題があるならば、まずはそれを速く解けるようにすることが大切です。できなかった問題、時間のかかる問題をピックアップし、間を空けずに短期間で繰り返し解くことが求められます。基礎的な計算力、すなわちAランク問題に対する精度とスピードが付いてくれば、時間のかかりそうな問題、内容が難解な問題を見極める力も必然的に養うことができるので、手堅く、かつ効率的に点数を積み上げることができるようになります。また、ここまでできるようになったのを前提として、自習時には意欲的に難しい問題、例えば演習で復習優先度Bの問題と戦うことも大切です。ワンランク上の問題を高地トレーニングとして経験しておくことで、基礎的な問題がより確実に正答できるようになるからです。

監査論

基礎的な知識を確実に！

栗田　過去問は、繰り返し出題されていますが、演習や肢別チェックにおいて、情報提供しておりますので、それを確認していただければ十分です。ご自身で過去問分析を行う必要はありません。

最近の短答式試験の監査論は、基礎的な知識で7～8割得点できるような出題となっています。しかし、正解できる問題の中の全ての肢の正誤の判断が容易というわけではありません。判断が難しい肢を避け、判断が容易な肢を確実に見極めなければなりません。

そのためには、基礎的な知識について、正確に、漏れなくおさえることが重要となります。テキスト、肢別チェック、演習を繰り返し学習することにより、基礎的、典型的な問題に対応できる知識を確実に習得してください。

財務会計論（計算）

練習量を確保する

瀧本　財務会計論（計算）に限りませんが、短答式試験ではAランクの問題を確実に正答することが大切です。そのためには必要十分な練習量を確保することが求められます。講義期には講義の復習にあたってしっかりと問題集に取り組み、繰り返し問題を解く必要があります。さらに演習期に入ってからも演習の問題を繰り返し解くことが大切です。大原の演習は本試験の出題傾向を反映して作りこまれていますので、演習を繰り返し解き直すことでAランク問題が確実に解けるようになるはずです。

あとは解くべき問題を見抜く力を養い、さらにひっかけ問題に対応できるようにするため、知識を体系的に整理することを心がけてください。そのために、問題演習の過程で気になったところはこまめにテキストに戻って確認をするようにしてください。

財務会計論（理論）

短答実力養成演習でAランク問題を正答できる実力を！

新井　理論の出題範囲である会計基準・適用指針等の規定は膨大な量があります。大原のテキストは、過去問を分析したうえで、これら膨大な量の中から出題の可能性が高い基本論点を抽出して作成しています。また、肢別チェックと短答実力養成演習は、再び出題される可能性が高い過去問を取り入れていますので、これらの問題を解けば、過去問対策も十分です。財務会計論（理論）の短答実力養成演習は、巻末に確認問題を収録し、基本論点を効率的・網羅的に復習できるようにしています。実際に今回の試験で出題された肢の2分の1は短答実力養成演習（確認問題を含む）で解いたことのある肢でした。

テキストと短答対策用のインプット教材であるポケットコンパスを利用して基本論点の理解と暗記を進め、肢別チェックと短答実力養成演習の問題演習を通じて、これら基本論点に関する知識の精度を高めれば、Aランク問題は確実に正答できるようになります。あとは本試験と同レベルの短答直対演習を通じて実戦経験を積めば短答対策は万全です。

二葉　合格点を取るには、どの科目も細かな知識に走らず、正答すべき基本的な問題を確実に取るというスタンスで共通しています。

テキストを読み込み、情報を整理して基礎的な知識の精度を高めて肢の判断力を養うことが必要だということですね。

先生方のお話しから、今後も短答対策の学習の基本的なスタンスは従来と変わらないということがわかりました。

ご参集の先生方、昨日の模範解答の作成でお疲れのところ、誠にありがとうございました。

それでは、これで令和4年第Ⅱ回短答式試験の振り返りを終了いたします。

※受験会場イメージ

大原の短答式試験「ボーダーライン予想」「解答調査集計結果」

大原では「短答式試験解答調査」に毎年多くの受験生の皆さまにご協力いただき、参加者個人の成績をリアルタイムに集計しております。その結果を取りまとめ、次のサイトにて「ボーダーライン予想」と「集計結果はこちら」で得点比率分布表を公表しております。ぜひご覧ください。

大原　会計士　速報　**検索**

https://www.o-hara.jp/course/kaikeishi/kai_answer_flash_02

2022年 合格目標

全国統一公開模試のご案内

論文式全国統一公開模試第2回

会場受験コース 定員制　定員締切によりご希望の会場で受験できない場合がございます。詳しくは、ご希望の実施会場校までお問い合わせください。

※会場受験のインターネットお申込は7月10日(日)締切となります。

●実施日

7月16日(土) 監査論 10:30～12:30 / 租税法 14:30～16:30　**7月17日(日)** 会計学 10:30～12:30 / 14:30～17:30　**7月18日(月)** 企業法 10:30～12:30 / 選択科目 14:30～16:30

(注意事項)本試験同様、試験開始20分前より注意事項の読み上げを行います。　(注意事項)会場受験コースにて当日欠席された場合、答案の受理はできませんので、予めご了承ください。

●受講料(税込)

科　目	受験料	大原受講生割引価格	大学生協等割引価格
一括パック(5科目)	7,500円	7,200円	7,120円
4科目パック	6,500円	6,300円	6,170円
3科目パック	5,500円	5,300円	6,170円

科　目	受験料	大原受講生割引価格	大学生協等割引価格
2科目パック	4,500円	4,300円	4,270円
1科目	3,500円	3,300円	3,320円

大原の2022年合格目標の合格コース生の方は、コースに含まれますので、別途お申込いただく必要はありません。

●実施会場(全国22会場)

札幌校・仙台校・東京水道橋校・池袋校・新宿校・町田校・立川校・横浜校・日吉校・津田沼校・柏校・大宮校・高崎校 ・新潟校・金沢校・浜松校・名古屋校・大阪校(新大阪)・神戸校・京都校・愛媛校・福岡校
※新型コロナウイルス感染拡大防止にともない会場受験から自宅受験に切り替えていただく場合がございますのでご了承ください。

※答案の返却方法については、登録受講校により異なります。登録受講校までお問い合わせください。

自宅受験コース〔採点+Web解説付〕

個人別成績表Web投稿日　8月8日(月)

●発送スケジュール　※受験料は、会場受験コースと同一となります。

問題発送日	7月16日(土)	解答解説発送日	7月19日(火)
答案提出締切日(必着)	7月25日(月)	解説講義Web配信日	7月19日(火)

(注意事項)　■答案締切日は厳守してください。締切日を過ぎて提出された答案は、成績処理ができませんので予めご了承ください。
※通信生の方の答案は、8月8日(月)にWeb返却致します。

選抜特待生試験のご案内

論文式:8月・11月

大原は頑張っている人を応援します！
大原以外の他校からの乗り替えもバックアップいたします！

この1年、一生懸命頑張って合格圏内に達する実力をつけたのに、本番でその実力を出し切れなかった方、来年こそその成果を出しましょう。
大原では、全国統一公開模試の上位者に加え、選抜特待生試験の優秀者にも「次こそ合格」のためのバックアップをしていきます。特に他校受講生の方にお勧めいたします！ ぜひこの機会を利用して、どんどんチャレンジしてください。

論文式選抜特待生試験

財務会計論(計算)・管理会計論(各1問)による論文式試験

上位10%以内	50%割引
上位20%以内	40%割引
上位30%以内	30%割引
上位50%以内	20%割引

※割引対象の上級コース(通学・通信)お申込み時に一般価格から割引いたします。
なお、他の割引制度との併用はできません。
※集中資格取得(全日・夜間)コースは、対象外となります。

実施内容

論文式	実施日時	申込期間	結果発表	割引適用コース
第1回	8月24日(水)18:30～20:30	8月17日(水)～ 8月24日(水)	8月26日(金)	上級短答論文、上級論文総合、上級フリープラン160以上
第2回	11月21日(月)18:30～20:30	11月14日(月)～11月21日(月)	11月23日(水)	上級短答論文、上級論文総合、上級論文対策、上級論文演習、上級フリープラン120以上

実施校　札幌校・盛岡校・仙台校・東京水道橋校・池袋校・新宿校・町田校・立川校・横浜校・日吉校・津田沼校・柏校・大宮校・長野校・松本校・宇都宮校・高崎校・新潟校・静岡校・浜松校・名古屋校・京都校・大阪校(新大阪)・難波校・神戸校・愛媛校・福岡校
(注)盛岡校・宇都宮校・高崎校・長野校・松本校・静岡校は、論文式第2回のみの実施となります。

割引有効期限　論文式／第1回 2022年9月30日(金)、第2回 2022年12月24日(土)　※郵送時消印有効

受験料　無料　　**手続き**　詳細につきましては受験希望校にお問い合わせください。

●注意事項
※選抜特待生割引と他の割引制度との併用はできません。なお、選抜特待生割引申込は、大原窓口のみに限らせていただきますので予めご了承ください。
※特待生試験は複数回の受験が可能です。ただし、上級合格コースお申込後に再受験いただきましても、そこで得た有利な割引条件との差額返金は一切いたしませんので予めご了承ください。

大原ホームページ ▶ https://www.o-hara.jp/course/kaikeishi/kai_selection

2023年 公認会計士試験はこう戦う!!

受験経験者のための2023年短答式・論文式必勝法

短答式試験が終了し、早や3週間が経ちました。自己採点の結果に手応えをお感じの方は、論文式試験に向け自己の弱点を補強し、知識の精度を向上させてください。一方、短答式試験で満足できる結果を得られなかった方は、試験の結果を分析し、次の12月短答を確実に突破するために1日も早く学習を再開しましょう。今回は、主に12月短答の突破を目指し、リスタートをしようという方々へ大原から公認会計士試験の戦い方をご提案します。その第1はリスタート戦略のあり方、第2は12月短答必勝プラン、そして第3は、ご自身の実力に応じたコース選びです。これらを参考に、12月短答を突破し論文式試験に合格するためのプランニングを行い、再チャレンジに向けたリスタートを切りましょう。

リスタート戦略のあり方

(1) まずは12月短答を突破

2023年の会計士試験合格を目指す皆さんにとって、当面の目標は12月短答の突破です。12月短答を突破すれば、その後の論文対策の学習にじっくり取り組めるため、受験戦略上非常に優位に立てます。つまり、5月短答を意識する必要がないため、12月短答終了のタイミングから、租税法や選択科目も含めて全科目のバランスを考えながら論文対策に取り組むことが可能だからです。過去の合格実績を分析してみても、12月短答の合格者はその年の論文式試験において高い割合で合格を果たされています。

ところが、短答式試験のボーダーラインが70%前後を推移する現状では、短答式試験を単なる通過点と捉えることはできません。ボーダーラインがこの水準にあるということは、基礎的な問題を1~2問取りこぼしただけで致命傷になりかねないからです。それだけに、12月短答の対策は万全を期すべきであり、そのためにも適切なコースを選択し、1日も早く学習を再開することが重要です。

(2) 早期リスタートの勧め

12月短答に合格するという目標を立てたとき、まず行わねばならないのは受験経験者としてのご自身の「仕上がり度」の確認です。「仕上がり度」については、次の①~③の事項を目安に判定をしてください。

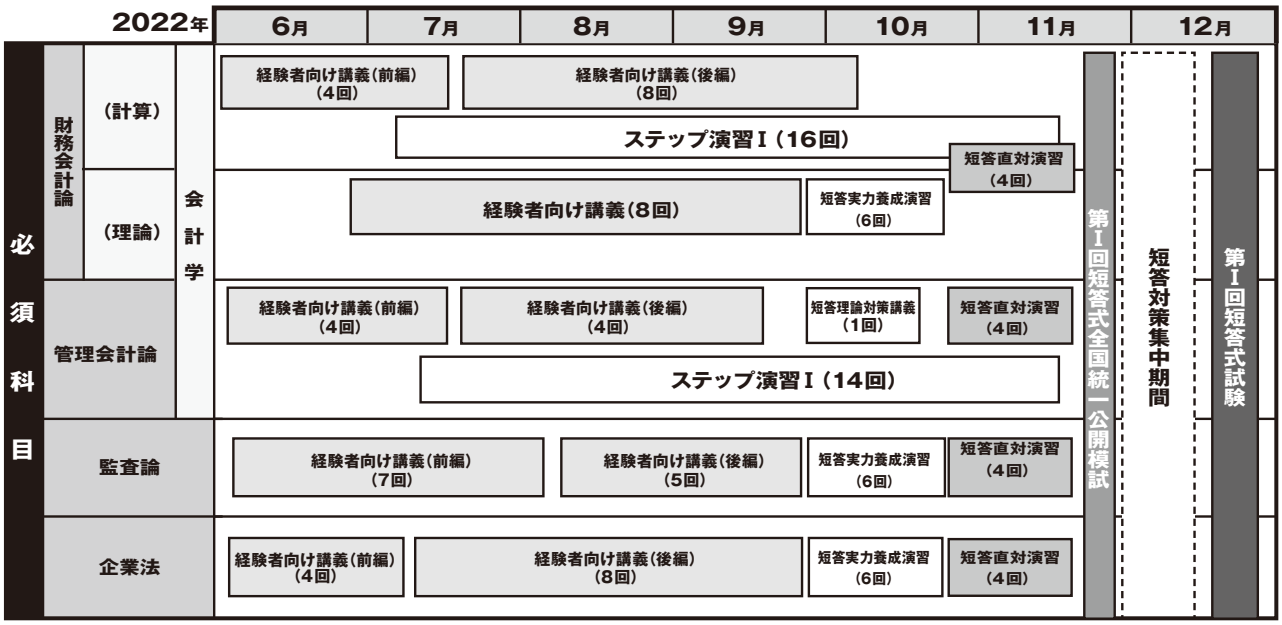
①初学者コースの講義・演習をすべて受講したか。

②演習では、平均点程度をコンスタントに獲得していたか。

③科目により得手・不得手はあっても、受験科目の全範囲について基礎知識を網羅できているか。

まだ①~③のレベルに達していないと自覚される方は、リスタートの時期をこの6月初旬からとお考えください。特に財務会計論や管理会計論の計算部分について、平均点に到達していなかったという方は、次の【表1】の12月短答必勝プランを参考に、1日でも早くスタートを

【表1】12月短答必勝プラン



●経験者向け講義(前編)
短答式試験対策として、できるだけ早期に着手して克服しておきたい論点を取り上げる講義。
※財務会計論(計算)、管理会計論、監査論、企業法について実施致します。

●経験者向け講義(後編)または経験者向け講義
短答頻出論点や受験生の多くが苦手とする分野を中心に取り上げ、短答式試験でハイスコアを狙える実力に仕上げるとともに、論文式試験をも視野に入れた論点の掘り下げを行う講義。

●ステップ演習Ⅰ
12月短答突破に向けて計算演習を積まれる短答受験生の方に、出題論点を一巡していただける演習。

●短答実力養成演習
短答理論3科目について、それぞれ全範囲を6回に分けて、確実に獲るべきAランクの問題を中心に出題。毎回、3時間枠で1回の演習とその解説を実施し、基礎知識の再確認と弱点分野の克服を狙いとします。

●短答直対演習
短答対策の各種講義で修得した知識を総動員して、制限時間内で如何に高得点を獲るかを実践する演習。
時間配分、設問や肢の難度の予測など、短答突破に必須の判断力を養います。

切るようにしてください。合格コースとしては、経験者向け講義(短答式試験対策のインプット)が含まれる上級フルパック合格コースをお勧めします。

一方、今回の短答式試験では手応えを感じられなかったが、計算科目については普段の演習で平均点以上を常に獲得しているという方は、7月中旬の論文式公開模試を今年度の受験勉強の締め括りと位置づけ、この直対期を最後まで駆け抜けてください。論文受験者と同じ経験を積むことは、次年度の受験勉強に必ずプラスとなって現れます。その後、上級フルパック合格コースに合流して、じっくりと短答対策に取り組んでください。

なお、2023年受験の上級コースの概要は、次のページの【表2】定型コースに含まれている講義と演習をご覧ください。

12月短答必勝プラン

(1) 短答計算科目の攻略プラン

①得点が伸びない理由

計算科目が得意になれば、安心してエネルギーを理論科目へ配分できます。しかし、「まだまだ得点源にはなっていない」「知識に不足があるとは思わないが得点に繋がらない」という方は、まずはご自身の学習スタンスを振り返ってみてください。

計算科目は、初年度に一通りのインプットを終えると、受験年の後半からは問題演習を繰り返し、制限時間内に如何に高得点を獲得するかというアウトプットトレーニングに重点が移ります。これが殆どの受験生が実行している計算科目の学習スタンスです。しかし、「ある論点が出題されると途端に点数が伸びなくなる」「典型問題は何となく解けるが、少し複雑になると手が出ない」といった方は、各論点についての知識が曖昧であったり、しっかりと整理されていないため、問題の解法に際しても、論点の繋がりを紐解く糸口を見出せずにいる状況に陥っているのです。

②計算科目の克服法

このような状況から抜け出し、計算科目に確たる自信をもつためには、点数が伸びず克服したいと考えている論点について、テーマを絞って問題演習をやり込むことです。具体的には、ある論点について、既にお持ちの演習問題を取り揃え、テーマのボリュームに応じて2日間とか3日間、関連する問題を徹底的に解くのです。もちろん、間違えたところはテキストに立ち返って知

【表2】定型合格コースに含まれている講義と演習

	上級フルパック	上級ベーシック	上級短答論文※1	上級論文総合※1	上級論文対策※1	12月短答必勝講座受講者のための上級論文対策	上級論文演習※1
開講月	6月	6月	9月	9月	11月	12月	12月
短答式試験科目の講義	経験者向け※2	初学者用※3	経験者向け論文対策※4	経験者向け論文対策※4	経験者向け論文対策	―	―
租税法・選択科目の講義	初学者用※3	初学者用※3	初学者用※3	初学者用※3	受験経験者用	初学者用※3	―
Web講義セット標準装備※5	○	―	○	○	―	―	―
管理短答理論対策講義※6	○	○	―	―	―	―	―
監査論事例対策講義※7	○	○	―	―	―	○	―
企業法論証例解説講義※7	○	○	―	―	―	○	―
管理・租税理論対策講義	○	○	○	○	○	○	○
経営学新試験委員対策講義※7	○	○	○	○	○	○	○
租税法令和4年改正特別講義※7	○	○	○	○	○	○	○
租税法組織再編税制特別講義※7	○	○	○	○	○	○	○
論文総まとめ	○	○	○	○	○	○	○
短答実力養成演習	○※8	○※8	―	―	―	―	―
短答直対演習	○	○	○(5月対策)	―	―	―	―
ステップ演習Ⅰ	○	○	△※9	△※9	△※9	△※9	△※9
ステップ演習Ⅱ・直対	○	○	○	○	○	○	○
論文基礎・応用・直対演習	○	○	○	○	○	○	○
短答公開模試	○	○	○(5月対策)	―	―	―	―
論文公開模試	○	○	○	○	○	○	○

※1 科目合格者対応コース
短答免除者を対象とした上級総合合格コース、上級論文対策合格コース、並びに上級論文演習合格コースについては、科目合格者のご要望に柔軟にお応えできるよう受講が不要な免除科目の講義と演習の受講料を一般価格から控除してお申込いただけます。

※2 経験者向け講義(前編)(後編) Renewal
短答式試験科目の経験者向け講義は、インプットに要する講義回数をトータルで従来の約6割に圧縮しました。これにより会計士受験生の実力形成に必須となる自習時間を飛躍的に確保することを可能にしました。次の※5にてご紹介するWeb講義セットと組み合わせて学習を進めることにより、実力形成にじっくりと取り組んでいただけます。

※3 初学者用講義
初学者向けの講義は、スピィーディーかつコンパクトに受講いただけるようスタジオ収録の凝縮講義をライナップしています。情報量をそのままに、インプットに要する時間を従来の6割以下に抑えていますので、コマ数が多くても復習や演習の時間を飛躍的に増やすことが可能です。

※4 計算科目の経験者向け論文対策講義
上級短答論文合格コース、上級論文総合合格コースでは、財務会計論(計算)と管理会計論について、論文対策の講義を組み込んでいます。論文式試験において問われる重点出題項目を中心に論点の解説を行います。

※5 Web講義セット標準装備 New
上級フルパック合格コース、上級短答論文合格コース、上級論文総合合格コースにセットされています。
ご自身の仕上がり程度に応じて得意な科目は経験者向け講義で効率的に履修、苦手な科目や分野は初学者向け講義に戻って復習や再確認をするなど、知識の修得を効果的に行っていただけます。
短答式試験科目:初学者向け講義をセット
租税法・選択科目:経験者向け講義をセット

※6 管理会計論短答理論対策講義
「原価計算基準」を中心に短答合格に必要な論点を網羅的に解説する講義です。原価計算と管理会計の理論的知識の精度を向上させることによって、不安定な管理会計論を得点の読める科目へと仕上げます。

※7 合格コース特典講義
監査論事例対策講義、企業法論証例解説講義、租税法令和4年改正特別講義、租税法組織再編税制特別講義、経営学新試験委員対策は、何れも合格コース特典の講義です。上級フリープランを含む該当コースにお申込の方は、履修登録されている科目について受講いただくことができます。

※8 短答実力養成演習
財務会計論(理論)、監査論、企業法について、全出題範囲を6分割した短答形式の教材(演習)により、全6回で実施します。

※8 ステップ演習Ⅰ
短答免除者向け合格コースについては、租税法のみを組み込み、財務会計論(計算)と管理会計論を含みません。

識の確認と整理をしていきます。これを論点ごとにテーマを決めて実行し、得意論点を一つひとつ増やしていくことで、その科目を得意科目にすることができます。このような勉強は、この夏の間に終えておきたいものです。そこで、財務会計論(計算)と管理会計論については、6月初旬から開講する「経験者向け講義(前編)」、7月中旬から開講する「経験者向け講義(後編)」をペースメーカーにして、テーマごとに知識の確認と整理を行うとともに、ステップ演習にて本試験の出題形式に応じた実践的な解答力・応用力を養ってください。

(2) 短答理論科目の攻略プラン

①得点が伸びない理由

一般に、理論科目は理解が大切だと言われています。しかし、正確な理解をするためにはある程度のまとまった知識がインプットされていることが前提となります。論文式試験ではあるテーマについての総合的な理解が問われ、短答式試験では主として理解の前提となる知識が出題されています。短答式試験で点数が伸び悩む方の多くは、インプットされた知識の量が不足しているか、正確性に問題があることが多いようです。それ故、4肢6択形式で出題される短答式試験では肢を絞り込むことができず、自信を持って正解肢を選べないという状況に陥っている方が見受けられます。

②短答理論科目の克服法

短答式試験突破のための理論科目の学習で最も重要なことは、講義で使用したテキストを読み込み、必要な知識をインプットすることとその網羅性です。その際、「肢別チェック」のA・Bランクを中心とした問題演習を同時に行うことで、テキストの記載内容の記憶への定着を図ります。また必要に応じて、法規集の規定や六法の条文等の原典を参照することで、知識の裏付けを取ることも忘れてはなりません。次に、短答直対演習で、問題毎の難度を予測する目を養うとともに、難度の低い問題から優先的に解く、また、難解な問題も関連知識を総動員して正答を導き出すという実践的なテクニックを習得してください。

そこで、まずは「経験者向け講義」にて大方の受験生が苦手意識を持つ分野・論点を中心に短答突破に必要なポイントを概観し、弱点の洗い出しと克服のための正確な理解と知識に磨きを掛けてください。また、一通りのインプットが終了すると、9月下旬から始まる「短答実力

養成演習」のトレーニングを通じて基礎知識の再確認を行い、10月下旬からスタートする「短答直対演習」に備えていただきます。

6月以降、この夏をメインに開講する【表2】の合格コースの中から、皆さんの学習プランに応じて適切なコースをお選びください。

なお、各科目の講義や演習の実施内容の詳細については、「2023年受験対策 公認会計士上級コース」パンフレットのカリキュラム紹介ページ（P.47～50）をご覧ください。

大原だけのオンライン校（上級webライブ）

大原では、通学、通信と並ぶ第3の受講形態として、インタラクティブなwebライブ講義を配信するオンライン校を展開しています。

2023年受験の上級コースについては、上級フルパックと上級短答論文、上級論文総合の各合格コースにて開講します。

オンラインで講師と双方向のコミュニケーションを取りながら進む講義は、適度な緊張感を維持でき、疑問点の質問も講義の前後にできるので効果的な学習ができます。さらに担任講師がお一人おひとりの学習進捗状況や理解度を把握しているので、その時々の状況に応じてタイムリーな情報提供とサポートができます。

また、平日14時から17時の間にてオンライン上で講師に学習相談や質問ができる「オフィスアワー」を設定しており、疑問点や不安をすぐに解消することができます。

最後に2023年上級フルパック合格コースのwebライブ講義日程の一部をご紹介致します。

2023年上級フルパック合格コース　講義等予定表（6月、8月抜粋）

■2022年6月

日		Educast		ZOOM	
		昼／14:00～	夜／18:30～	時間①	実施内容
1	水				
2	木				
3	金				
4	土				
5	日				
6	月				
7	火				
8	水				
9	木				
10	金				
11	土				
12	日				
13	月			18:30～	開講オリエンテーション
14	火		【財計】経験者(前)①		
15	水				
16	木		【管理】経験者(前)①		
17	金		【監査】経験者(前)①		
18	土	【企業】経験者(前)①			
19	日				
20	月				
21	火		【財計】経験者(前)②		
22	水				
23	木		【管理】経験者(前)②		
24	金		【監査】経験者(前)②		
25	土	【企業】経験者(前)②			
26	日				
27	月		【監査】経験者(前)③		
28	火		【財計】経験者(前)③		
29	水				
30	木		【管理】経験者(前)③		

※講義および演習は収録は行いません。　※一部教室実施解説を配信しない演習もございます。

7月（略）

■2022年8月

日		Educast		ZOOM	
		昼／14:00～	夜／18:30～	時間①	実施内容
1	月		【財計】経験者(後)④		
2	火		【監査】経験者(後)②		
3	水		【財理】経験者④		
4	木		【管理】経験者(後)③	7:30～	財務STI①
5	金		【企業】経験者(後)④		
6	土				
7	日				
8	月		【監査】経験者(後)③		
9	火		【財計】経験者(後)⑤		
10	水		【財理】経験者⑤	8:00～	管理STI①
11	木			7:30～	財務STI②
12	金		【企業】経験者(後)⑤		
13	土				
14	日				
15	月				
16	火				
17	水		【財理】経験者⑥	8:00～	管理STI②
18	木		【管理】経験者(後)④		
19	金		【企業】経験者(後)⑥		
20	土				
21	日				
22	月		【監査】経験者(後)④		
23	火		【財計】経験者(後)⑥		
24	水		【財理】経験者⑦	8:00～	管理STI③
25	木			7:30～	財務STI③
26	金		【企業】経験者(後)⑦		
27	土				
28	日				
29	月		【監査】経験者(後)⑤		
30	火				
31	水		【財理】経験者⑧	8:00～	管理STI④

compass コンパス 7月号
●第1巻第251号通巻251号 ●2022年6月20日発行（毎月1回発行）
●発行人／谷田充朗 ●編集人／高橋航照
●発行所／大原簿記学校 〒101-0065東京都千代田区西神田1-3-4

公認会計士講座
Webでセミナー・体験講義

https://www.o-hara.jp/course/kaikeishi/kai_web_seminar

実際に大原のセミナー・映像講義を無料でご覧いただけます。
講義の雰囲気、内容などをぜひご体験ください。

初学者合格コース体験講義

個別の映像授業で学習をされている方のためだけに収録した講義。講師と1対1で行う学習を実感できるまさに『マンツーマン指導』のように効果的な学習ができます。

POINT 1
約10分にまとめられた学習項目別の講義映像

「いつでも、どこでも受講できる」をコンセプトに、講義を項目ごとに細分化。1つのチャプターが10分程度でしかも項目別に講義が受けられるので、移動時間や食事の後の休憩時間など10分程度の細切れ時間でもしっかり授業を進められます。

POINT2
情報量はそのままに、講義時間を大幅に短縮

復習・演習に時間を有効活用いただくため、情報量はそのままに講義1コマ分の視聴時間を従来の180分から100分以内に短縮しました。また、同じ範囲をこれまでより短時間で繰り返し視聴して学習することができるため、弱点の克服にも最適です。

POINT3
短時間多回転学習で弱点克服！

デジタルコンテンツを駆使して進む講義は分かりやすさも抜群。さらに苦手論点は、短時間で繰り返し学習ができるので、弱点克服にも最適です。

選択科目の選び方セミナー

論文式試験では、統計学・経済学・経営学・民法の中から1科目を選択することになっています。いずれの科目も、得意科目とすることによって高得点を期待することは可能です。しかし、ご自身の学習環境（受験に専念できるか否か）や科目の特性（数学的素養の要否の程度）によって、科目選択を決定していただくことを大原はお勧めします。

10分で分かる公認会計士セミナー

受験を検討されている方は、まずはこちらのセミナーをご視聴ください。公認会計士試験制度・実施内容など合格まで流れをご紹介します。

セミナー・体験講義をご視聴いただき、ご質問やご相談がございましたらお気軽にご連絡ください。
https://www.o-hara.jp/consultation

就職・転職のことなら 大原キャリアスタッフ

多くの法人と信頼関係を築いてきた『大原キャリアスタッフ』

3つのサポート！

情報満載	就職イベント開催	親切・丁寧なサポート
監査法人や税理士法人の求人情報を掲載。効率的に情報収集できます	多くの法人が一堂に集結する、参加無料のイベントを開催	キャリアコンサルタント（国家資格）が在籍。就職・転職をアドバイス

stf_staff@o-hara.group

大原キャリアナビ 検索

※大原キャリアナビに会員登録すると、継続的にサポートを受けられます。

●定期購読ご希望の方は、Tel.03-3234-6362、またはhttps://www.o-hara.ac.jp/でお申し込みください。